

早稲田大学 教育学部 国語(現代文) 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、古文1問、漢文1問)
特徴・その他	昨年までの古漢1問から、漢文が独立した大問となった。

〔大問別講評〕

(一) 評論文。日本文化論。出典：内藤高『明治の音』。

《本文字数：約 3700 字＝昨年より約 200 字増加。設問数：9＝昨年より1問減少。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【漢字書き取り】2題。このレベルの漢字は是非正解したい。
問二	標準	【傍線部説明】傍線部中の指示語から、直前と照合する。
問三	易	【空欄補充】第一段落から容易に想起できるだろう。
問四	やや易	【空欄補充】前後の文脈から容易に判断できる。
問五	標準	【傍線部説明】2行後の一文が根拠となる。
問六	標準	【空欄補充】直後の引用文から考える。
問七	やや易	【傍線部説明】紛らわしい選択肢がなく、消去法でも容易に判断できる。
問八	標準	【傍線部説明】「分節」という重要語句を知っていたかどうか。
問九	やや易	【趣旨判別】紛らわしい選択肢がなく、消去法でも容易に判断できる。

(二) 評論文。「歴史と人間の結びつき」がテーマの文章。出典：内山節『「里」という思想』。

《本文字数：約 2900 字＝昨年より約 200 字増加。設問数：9＝昨年より1問減少。》

小問	難易度	コメント
問十	易	【傍線部説明】2～4行目から容易に判断できる。
問十一	易	【空欄補充】次の行から容易に判断できる。
問十二	標準	【傍線部説明】イの選択肢の因果関係は、本文に根拠がない。
問十三	やや易	【空欄補充】語彙の問題だが、難しくない。
問十四	標準	【傍線部説明】アの「常に…」以下は言い過ぎ。オの「個人の経験」は傍線部の4～5行前に具体例が示されている。
問十五	やや難	【空欄補充】「近代」と迷うが、次の一文の内容から考える。
問十六	やや易	【傍線部説明】前後の文脈から判断する。
問十七	やや易	【空欄補充】直前の内容の具体例を考える。
問十八	やや易	【傍線部説明】前後の文脈から容易に判断できる。

〔総合コメント・今後の指針〕

<p>大問一は、「日本文化」をテーマにした評論文。4000字近い長文だが、それほど難しくないのも、時間配分にさえ失敗しなければ、高得点が取れたであろう。設問は、紛らわしい選択肢もなく、傍線部や空欄の前後の文脈だけで解ける問題がほとんどだった。ふだんから傍線部や空欄の前後をしっかりと分析するという姿勢を身につけておくといよい。</p> <p>大問二は、「歴史と人間との結びつき」をテーマにした評論文。多くの高校の教科書や予備校のテキストで同様のテーマが取り上げられているので、抵抗なく読めた受験生が多かったのではないだろうか。設問も基本的なものが多かったのも、合格するには高得点をとる必要があろう。</p>

早稲田大学 教育学部 国語(古典) 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、古文1問、漢文1問)
特徴・その他	昨年までの古漢1問から、漢文が独立した大問となった。

〔大問別講評〕

(三) 古文。出典：藤原長子『讃岐典侍日記』。

《本文字数：約 900 字＝昨年より約 200 字減少。設問数：8＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十九	難	【文脈把握】エが紛らわしいが、「恥らうこともなく平然と」の部分が言い過ぎ。「腹立たしかった」の部分も直後の文脈との整合性が悪い。
問二十	やや易	【文脈把握】傍線部までの内容から容易に判断できる。
問二十一	やや易	【記述・口語訳】「ゆかし」の意味に注意する。
問二十二	易	【文脈把握】「具す」の意味と前後の内容から容易に判断できる。
問二十三	やや易	【文脈把握】「おどろく」の意味と直前の内容から容易に判断できる。
問二十四	標準	【文脈把握】「ののしる」の意味と、直後の「ひしとやみぬ」とのつながりから考える。
問二十五	標準	【文脈把握】傍線部までの内容から判断する。
問二十六	易	【文法問題】助動詞「る」「らる」の接続を把握していれば容易。

(四) 漢文。出典：朱弁『曲洧旧聞』。

《本文字数：約 150 字＝昨年より約 110 字増加。設問数：5＝昨年より1問増加。》

小問	難易度	コメント
問二十七	標準	【返り点】再読文字「未」と、置き字「於」を把握していたかどうか。
問二十八	標準	【句形】傍線部は使役形のやや複雑な形。
問二十九	易	【文脈把握】空欄の前後のつながりから判断する。「是以」は重要表現。
問三十	やや易	【文脈把握】2行前の「毎食不顧他物、而獐脯独尽。」との対応に着目すれば容易。
問三十一	標準	【文脈把握】傍線部の表現と傍線部までの内容から判断する。

〔総合コメント・今後の指針〕

大問三は、『讃岐典侍日記』。頻出作品の一つなので、高校や予備校の授業であらすじを教わっていた受験生は容易に読めたと思われる。設問も、問十九以外は難しくないので、高得点をとった受験生が多かったであろう。単語と文法を地道に覚えつつ、省略されている語句を補いながらじっくり読む、という練習を続ければよい。

大問四は、『曲洧旧聞』。親しみやすい内容で、設問も基本的なものばかりであった。現役生のなかには受験勉強で漢文まで手が回らないという人がいるだろうが、句形などの基本事項だけでもマスターしておけば確実に得点できるレベルの設問である。センター試験レベルの漢文はできるようにしておきたい。